

深夜に大地震が襲う

東日本大震災後、最大規模の余震



石垣ブロックが崩落した県道一関平泉線(大佐地内)

震度6弱を観測

東日本大震災の発生から27日目の4月7日、多くの人々が眠りに就いていた午後11時32分ごろ、再び大きな地震が東北地方を襲いました。震源は宮城県沖でマグニチュードは7.4。

宮城県仙台市や栗原市では震度6強を観測。一関市や奥州市でも震度6弱、本町に設置されている地震計も6弱を観測しました。

この地震の影響により、町内をはじめ、県内全域で再び停電となったほか、長島地区や平泉の一部地域で断水となりました。

被害が拡大
当町の被害は、町道戸河内線の一部で落石のおそれがあるため通行止めになっているほか、道路や法面の亀裂や陥没など道路を中心に3月11日の地震で受けた被害が拡大しました。



5区内の山林では大きな岩が崩落した

余震・土砂災害に注意

東日本大震災以降、数多くの余震が発生しており、今後も大規模な余震が心配されます。今回の地震により道路の至る所で亀裂や陥没が生じています。道路や歩道の通行には十分注意してください。またこれから雨の多い時期が訪れます。度重なる地震で地盤がゆるんでいますので、土砂災害にも注意してください。

未来に向かって 頑張ろう！ 岩手

復興に向けた被災地への支援

東日本大震災の発生から間もなく2カ月を経過しようとしています。町では甚大な被害を受けた沿岸地域への支援を行うため一関市、藤沢町との合同支援本部を設置。陸前高田市への給水活動や皆さんからお預かりした支援物資の運搬など被災地への支援活動を行っています。

職員を派遣

被災地では今もなお、ライフラインが復旧していない地域も多く、陸前高田市をはじめとする多くの沿岸市町村では、公共施設や自治体職員も被害を受け、避難所で生活している人も対応する職員も疲労はピークに達しています。

町では、甚大な被害を受けた沿岸市町村を支援するため、同市内での給水車による給水活動や保健師による健康相談などの支援を中心に、被災地への職員派遣を行っています。



広がる支援

被災された地域には、町民皆さまからの支援物資の提供のほか、町消防団や町民有志によるさまざまな支援活動が行われています。4月23日には弁慶力餅保存会の会員らが、避難生活を送っている陸前高田市月山神社の避難所を訪れ、炊き出しを行いました。

避難所の方々は「納豆もちは初めて食べた」八斗汁は具

支援物資を被災地へ

3月25日まで各行政区を通じて町民の皆さまから提供頂いた支援物資を4月3日、(株)松栄堂さんのご協力を頂き、2台の2トントラックいっぱい米や缶詰などの食料品、トイレットペーパーや紙おむつといった生活用品を、支援要請のあった陸前高田市の3カ所の避難所に送り届けました。



給水車による給水活動

が「いっぱいおいしい」と話しながら納豆もちや八斗汁に舌鼓を打っていました。

東日本大震災とその後の余震による被害

被害項目	被害内容	箇所数	被害額
公共施設被害	悠久の湯平泉温泉や町公民館等	6カ所	3,266千円
学校施設被害	小中学校や幼稚園等	5カ所	2,641千円
社会体育施設	長島体育館や長島球場等	3カ所	5,930千円
水道施設被害	上水道・簡易水道の配水管破損等	19カ所	2,047千円
公共土木施設	道路、下水道・農集排施設等	150カ所	1,346,210千円
農業用施設	水田、水路、ため池等	21カ所	18,000千円
商工業関係	建物、機械設備の破損や宿泊施設被害	36事業所	54,130千円
被害総額			1,432,224千円

※ 4月25日現在町対策本部調べ。被害額は概算見込み額です。



道路の至る所で亀裂が生じた

被災地への職員派遣状況

(4月23日現在)

派遣先	支援内容	期間	派遣人数
陸前高田市	給水支援	3月19日から継続実施	延べ60人
	避難者入浴送迎(一関市、藤沢町とのローテーション)	3月21日から継続実施	延べ30人
	避難者・在宅者の健康相談など	3月23日～25日、4月1日～3日 4月11日～13日、17日～19日	保健師、事務職員 延べ12人
	炊き出し状況の把握・相談 所蔵土器の回収、復元作業など	4月6日～7日 4月21日	栄養士1人 文化財調査員2人
大槌町	救援物資の配送、避難所の運営など	3月27日～30日、 4月14日～17日、20日～23日	事務職員3人